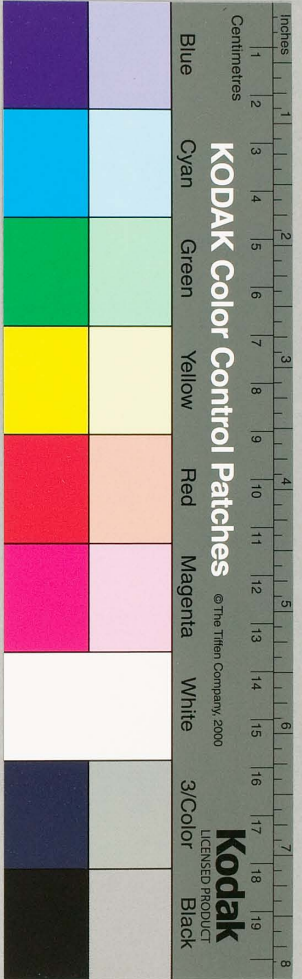
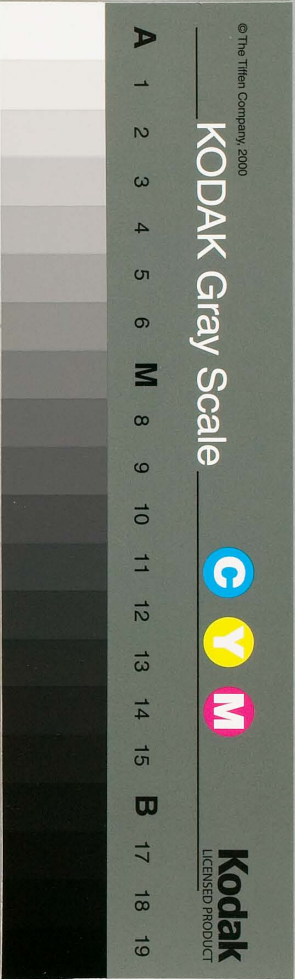


攝津名所圖會

大坂部四下



291.6309
Ak
5



0436

攝津名所圖會

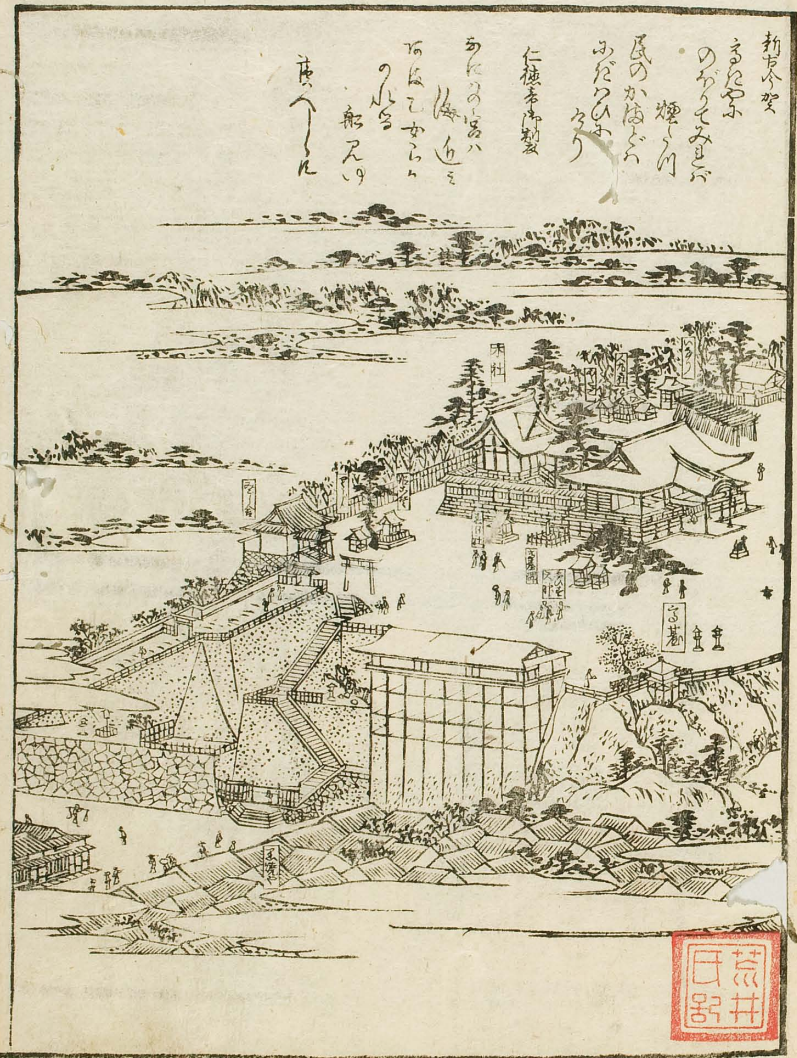
大坂部四下



291.6309

Ak

5



新米
 高田
 のがとみさ
 煙の
 民のかほら
 みだつひ
 仁徳寺
 あたりの
 海
 可成り
 船
 船
 船

武庫川女
 昭和 年 月 日 29/6/27
 AK
 117091 5



高津社 西澤あり 御祭六月十八日
収祭九月十八日

祭神 仁徳天皇

但性古下照那命と系する延喜本此賣許曾神社名神
大月次相嘗新嘗貞觀元年正月授被四位下といふ是
なり後小仁徳天皇と死祠より下照那の名おそれ仁徳天皇の稱も亦河氏
持は志不後祀 仁徳天皇仍稱 仁徳帝廟といふ是なり中古より此賣許曾と別
社を奉り境内あり古社仍祀はもとより小今の所城の辺有る云云年中此地梅より
折る所宮神代下照那命の位を大徳とて之津といふ名は又川の岸のむきと
處てより淀川東より倭川西へ海濱よりて其中一押出るる如く地をうらやとて
和名といふなり 仁徳天皇下照那の旧跡をいひて都てよりいふ事なる津宮と
号し其下照那命と系ゆると此賣社と稱す小万葉集各々このこといふれぬ名おの
る津のわきなるかき「あはれ難波の氣あはれ方とてありのまゝとていふこと
きこ綱けしむとてこの方々のいひ事いひしをさしとて大君のいひさかむかひて
せしむ事いひし津宮の志は風系とよめるなり」天皇さきよりいひて菟道野の
麻の身と聆るいひてそを地は松おひのそとす一民の煙とをいひてさきもか
そより世よりこれとさよりより梅の岸の名もあなり「天正年中大岡秀吉は此地
に府城と築みいひて神社とて遠より遷すいひぬ今此賣許宮といふ是なり其
遷造の時も是と管梅ありより當河神庫に納む古記のなり天文七年

足利義晴公の言津宮祭祠寛永あり又慶長十九年 所稱預言小津宮の
号とて「吉記」あり又天明三年卯月 仙洞様より所代系あり
所和舟と所舟絶えたり是近き所なりて世に知れぬ事俗言上方のいふ所船救あり
撰社 此賣許曾神社 若宮八幡社 末社 菟道命 高良 春日
梅之橋 多市の田あり
瘦神 愛宕

高基之頌碑

社頭あり明和九年壬辰秋八月建之
平安芥煥彦章甫撰 浪花牟純平介甫書
此社頭は道頓堀の東あり一堆の丘山と遠く眺りて大坂の市匠の万戸
川の海帆往りの里夜若の浦若津三村の浦まで一瞬の中ありて敷
津の足親より常葉店遠眼流を至て清人と候りむ柏戸の
湯豆磨り世ふるさくと石塔の下に梅本店と和漢の茶本ふるく貯て四時
花とげのらた梅本店ありて考ふ梅といふ宮居なり

菟子梅も子とての白ひ式
斑叶

上小竹葉野

藤花葉出或云津の葉あり
ひの方と都く上小竹葉野といふ



南瓦屋町
飢餓師



坂戸の
綱引さるみ川の流をよこさうれとあけし茶畑小田鶴とて
道頓堀 大坂の南極より東横へさうり流く田舎の西へ
利後撰 本津川小入り海小會次
夕暮且難波つらふとえそれた落雲の雨てと夕 月夜

大傍正の慶、新後撰集、小海とて、道頓堀、西之内の夕氣色と
都み方らぬ難波女の名白く流さうふ出立と錦繡と海とひ珠の
髪揺落ちるをわら女伶あり男娼あり送るあり迎ひあり芝居側の
置したる四時とまかす川初春の十日、軽子とて梅白ひ初花ひ
くは天王寺の聖蓋會、彼春泰り寺社の南帳、佐右の夕干六月
の市田、極みと月の交糸、船遊びの花火、難波の夕涼、名月後の月
紗魚はり、輕さう十枚、藤子、藤若の曙、小夜の顔見世あり、月毎
の大師、巡音、茶師、青原、申、勸進、徳之、相撲、まてみか、百里の徳ひあり
下風の聲、色法師の琴の若者うと、難波江の流、終はくととまの
流あり、其流の身のまて、下止と、堰み、花の散や、と、儂好あり



日牟橋

通帳西船橋の架次へまは紀元二州の喉口より長町といひは蔵舎
 多し中七丁目河内登が家ハ登くは村筋百人と若以六丁目
 流戸牛筋多し或云は通り長町小の成實那古町之古の那古浦
 二ツ井 通帳西の東海郡町小の信泉より

竹田江が機換戯場と諸園を以て園と其名高し其初は原より阿波

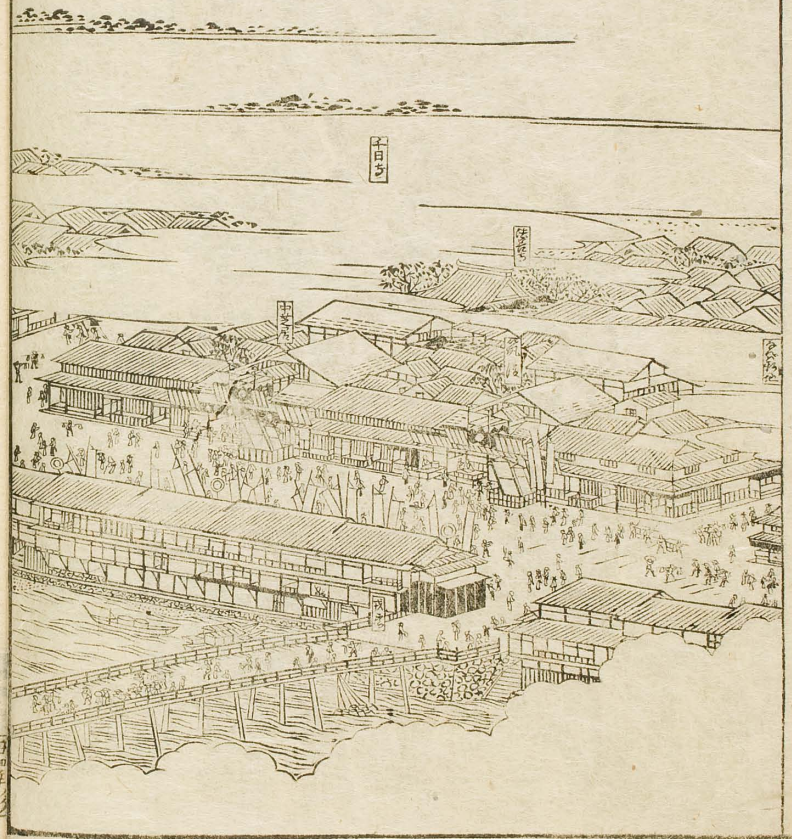
園の春みりと江戸小住しが考ふ法州の親者公治と其立領小多の
 人と育養の権權と教父と務る其理はさ小児養育集りて形遊ひ
 とくわが承えく砂時計の工まをめからし是並験りりともく

京都小訪く庵探偶人と製造し万治元年十二月朔日
 室井を潤進しなりたれを初く竹田出雲と更領公おせり
 今より百二十年の系好く其後寛文二年大坂小訪く初て機換

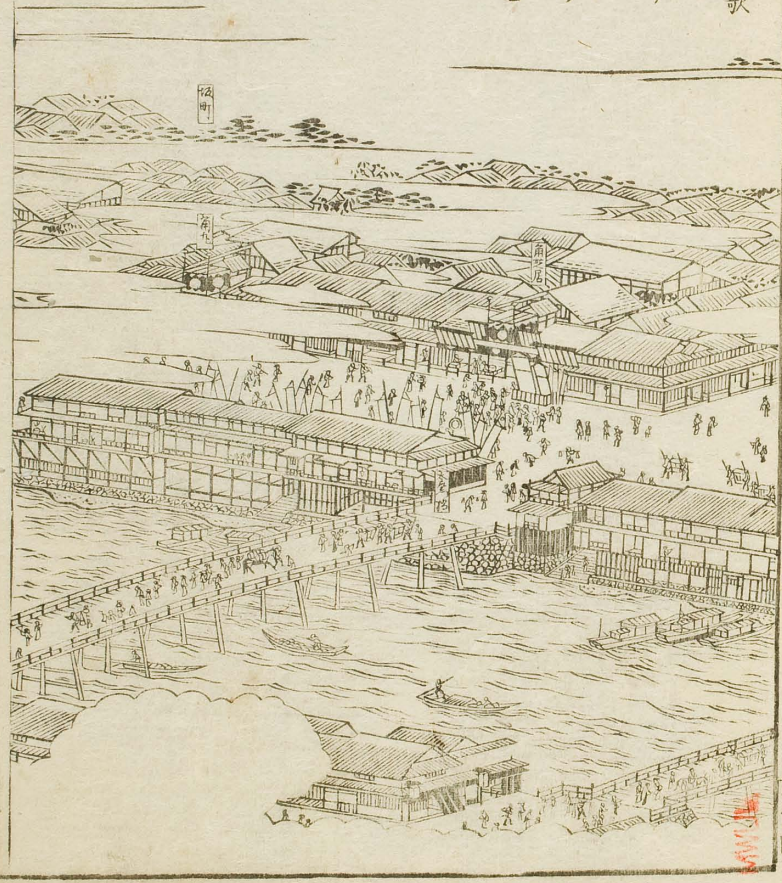
戯場と頼ひく興りし享保十年八月又日竹田江に更領と改元
 同十三年壬戌九月十九日江に没りたれ其将之江希(同年十一月系初

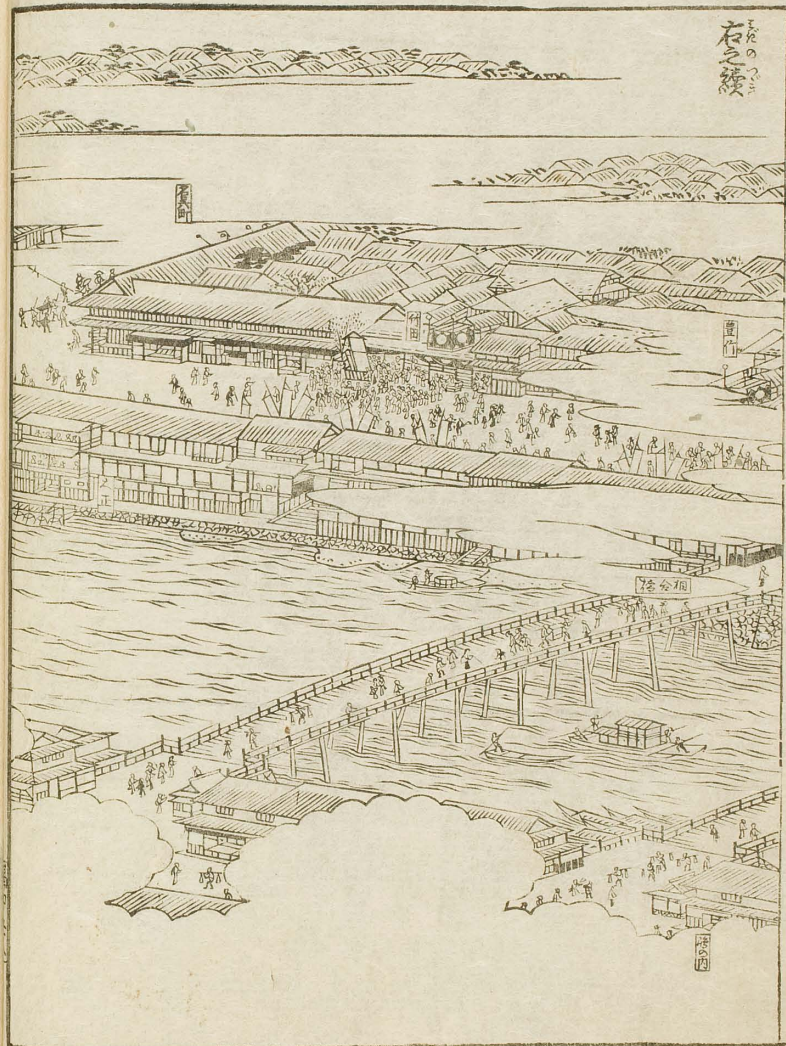
丹羽桃庵

芝居側
道頓堀



浪華客舎歌
大橋一百八
小橋未知名
張燈酒家夕
人影水中行
六如巷



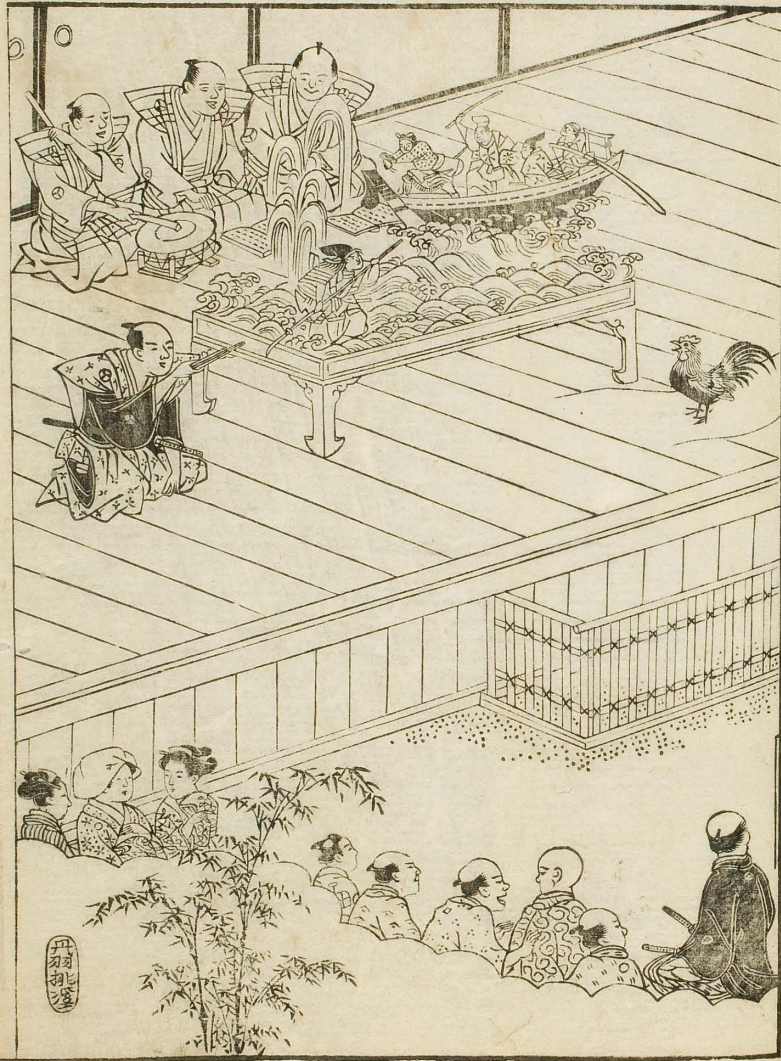


少くは領とあり寛保二年九月二日代の辺に津英死すれハ剛資重助
譲り史同二年京都より竹田辺に成於今相續は核換の若菜も
子供瓜中々戯言瓜居ひは芝居世小高く東馬意鄙の旗人竹田
産採瓜を種大坂(あつ)一験か(と)其(國)

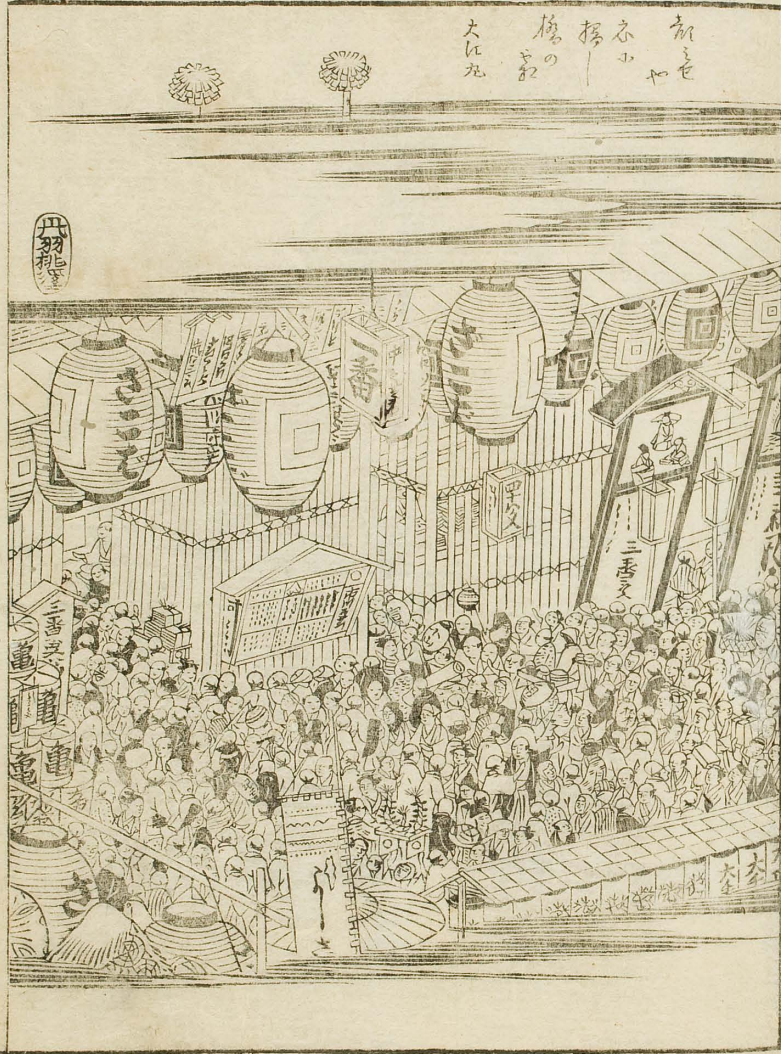
舞伎樂戸の慶長の以より名古登云云お困ふや(者)系師お世祇園
林立條河原より始て戲場興り(其)後彼等が才子村云又八松本
名左馬(系)登万太夫大坂大馬(地)登九糸次同九糸右馬(中)伏見の
城(指)月亭豊大園(中)あつて狂言盡て初々其後寛永年中京より
信分(と)者大坂下(下)下難波領の頭城(都)と(と)教て信芝居(初)と
立(と)是難波(者)若妓の始(せ)れ(り)女藝(と)禁(り)又(は)地登九糸右馬門
同(九)左馬(大)和登(甚)き清河内(登)糸松本(名)右馬(大)坂(太)右馬(若)系(初)より
大坂下(芝)居(興)り(及)其(に)み(か)後(芝)居(之)次(實)小(繁)昌(し)て(人)校(も)坊
お流(變)童(六)十(計)入(給)と(と)せ(り)其(に)名(代)在(本)の(極)り(し)か(く

揚(る)小(志)是(久)る(次)揚(る)不(慶)安(八)年(至)と(と)名(代)改(と)と(と)其(國)一(今)ハ
む(り)小(愛)と(と)く(夜)裳(し)矣(と)と(と)一(髪)と(と)一(小)僧(と)道(具)之(目)事(を)果(へ
(あ)く(十)倍(せ)る(室)の(梅)候(初)る(初)月の(以)て(表)の(顔)見(世)と(と)く(万)體(と)と
一(並)瀬(ら)幕(小)濱(の)多(打)櫓(太)鼓(の)若(小)樓(船)瓜(早)く(の)芝(居)り
色(長)大(振)袖(と)七(樂)戸(入)生(旦)洋(渾)丑(等)と(と)み(か)顔(の)色(に
形(一)角(の)芝(居)中(の)戲(場)と(と)ま(み)大(入)の(れ)と(と)出(角)丸(を)切(雅)拾
と(と)果(る)あ(つ)婚(あ)つ(い)ろ(は)茶(登)の(暖)簾(今)ハ(久)保(と)は(漢)側(と
み(か)は(胸)と(と)表(杖)の(懸)ひ(遠)近(大)坂(到)れ(と)お(と)日(ハ)芝(居)め(と)く
日(瓜)種(を)分(給)

戲棚和園竹本豊竹と(と)あ(る)の(り)義(若)丈(糸)瓜(初)者(と)貞(享)
二年(の)江(東)生(郡)又(王)寺(村)小(糸)右(馬)若(清)と(と)一(農)丈(と)若(若)ひ(と)の(生)實
津(海)濱(と)好(く)京(都)の(宇)治(加)賀(掾)と(師)範(と)若(若)節(秘)曲(瓜)夢(ひ
又(井)上(揚)磨(古)流(と)傳(て)義(丈)丈(糸)瓜(の)形(瓜)瓜(又)一(み)川(と)と(と)

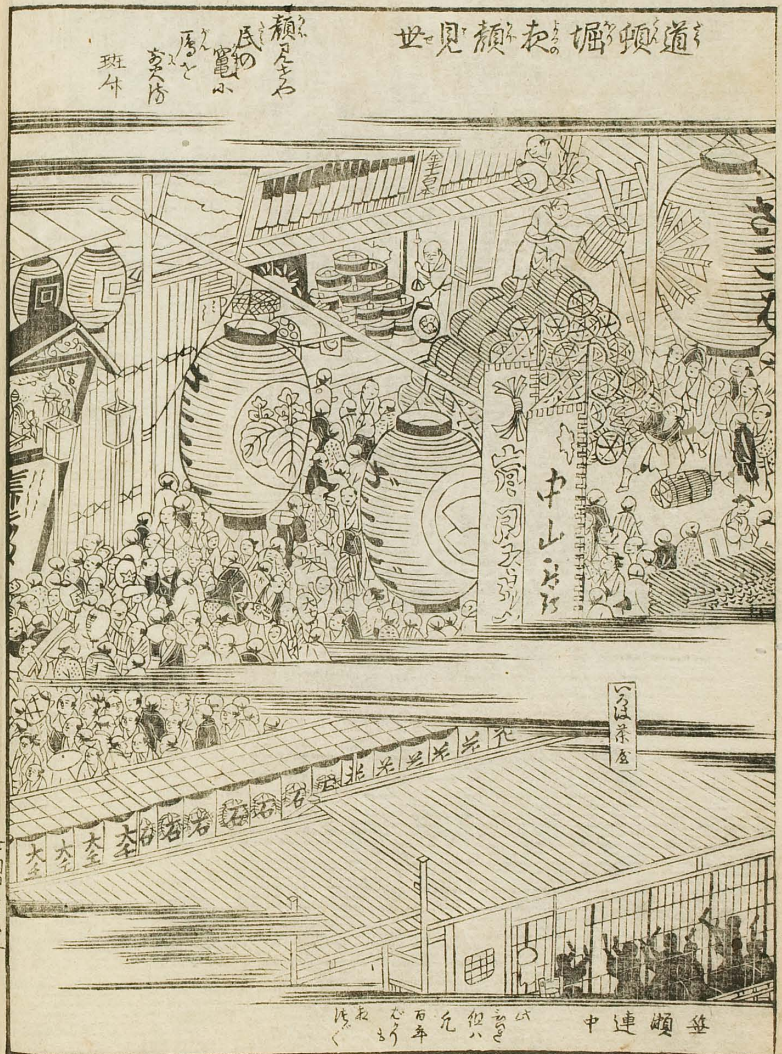


新
也
小
標
橋
の
大
元



道頓堀表顔見世

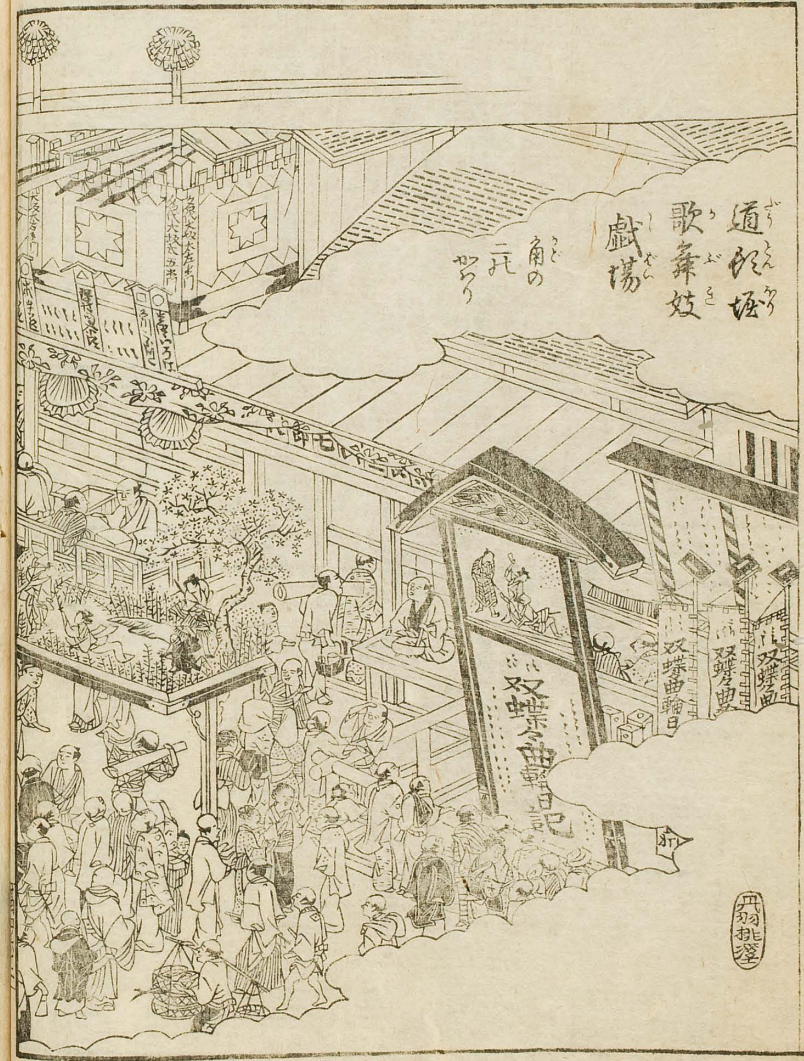
顔
見
世
の
小
標
橋
の
大
元



中連頓堀



好ごれ
 芝居見
 いそろ
 花巻の屋
 ゆり
 上様
 双様
 さり
 ざり



道頓堀
 歌舞妓
 戲場
 角の
 元
 四

平羽批察

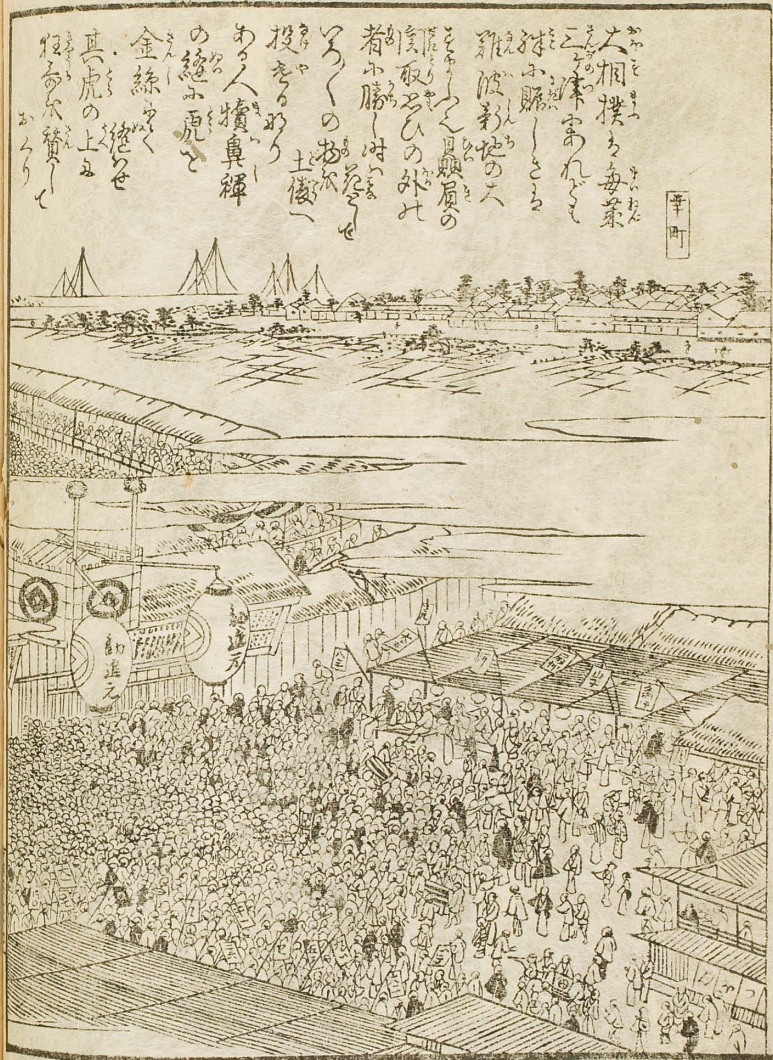
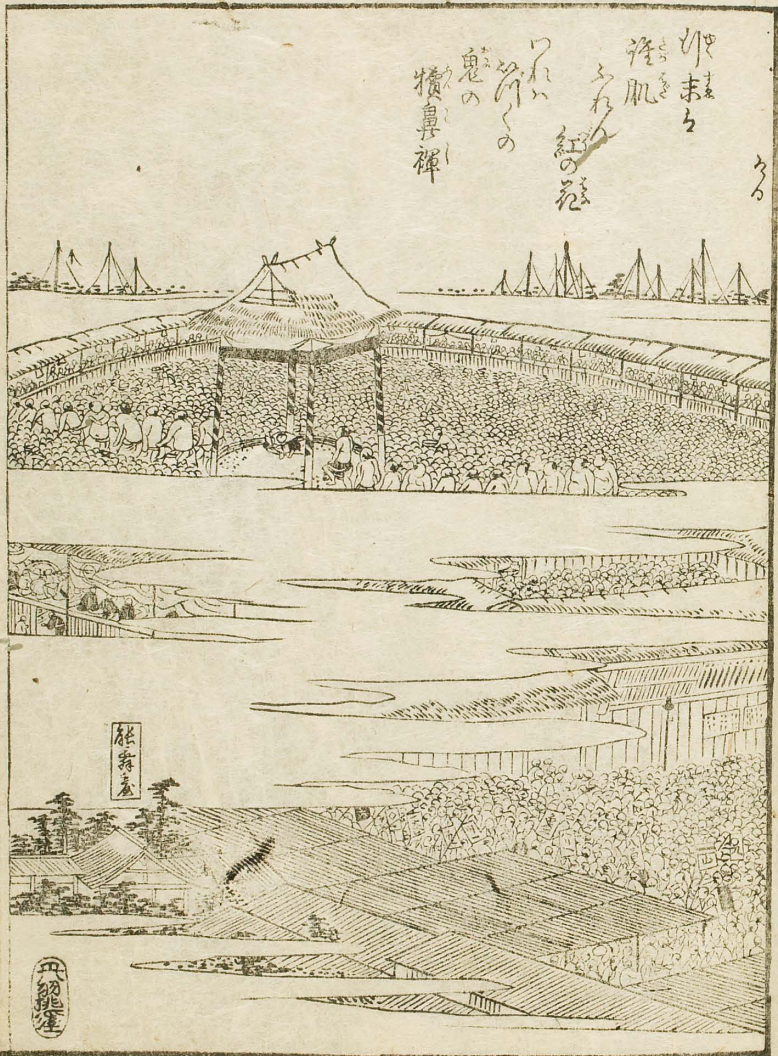
義太夫と名乗る其後迎松門を束縛し者新拾戯と化出せり又
 老翁とつけ鞠抄の中小笛の凡そ紋付の櫓幕広歩く竹本と號し
 戯棚芝居と興り筑後原講教と更領し元禄の末も竹田
 出雲竹本を存すとあり倍戯棚傀儡道具之ふむちを英傑と名て
 繁眉と号し豊竹義太夫又坂南船場の者としてあるなり并上竹本
 あか流と号し豊竹義太夫と號し初め竹本と一屋ありしが其後別な戲場を
 立ち豊竹上野と號し又改めて筑後原を奉養と名乗る相續せり
此言他者迎松門を束縛し者本姓は坂東氏なり長門國萩の村人
 系師本堂と号し言上家に仕官し報賞と号し兄も相國村乃
 宗長老貴し岡平と号し抱子と号し名賢と号し錦江といふ所乃
 て又坂中街に兄弟あり世に名馳り乃右馬の元禄の代仕官し
 退任せり俗人と成系師を弄妓芝居都方太夫或一字倍加賢術が
 津路理と號し芝居哲言他者の始迎し其後竹本義太夫と
 化者と成と年之へ後九年十一月廿二日七十歳に没せり
 此言其妙法傳し一冊を遺す

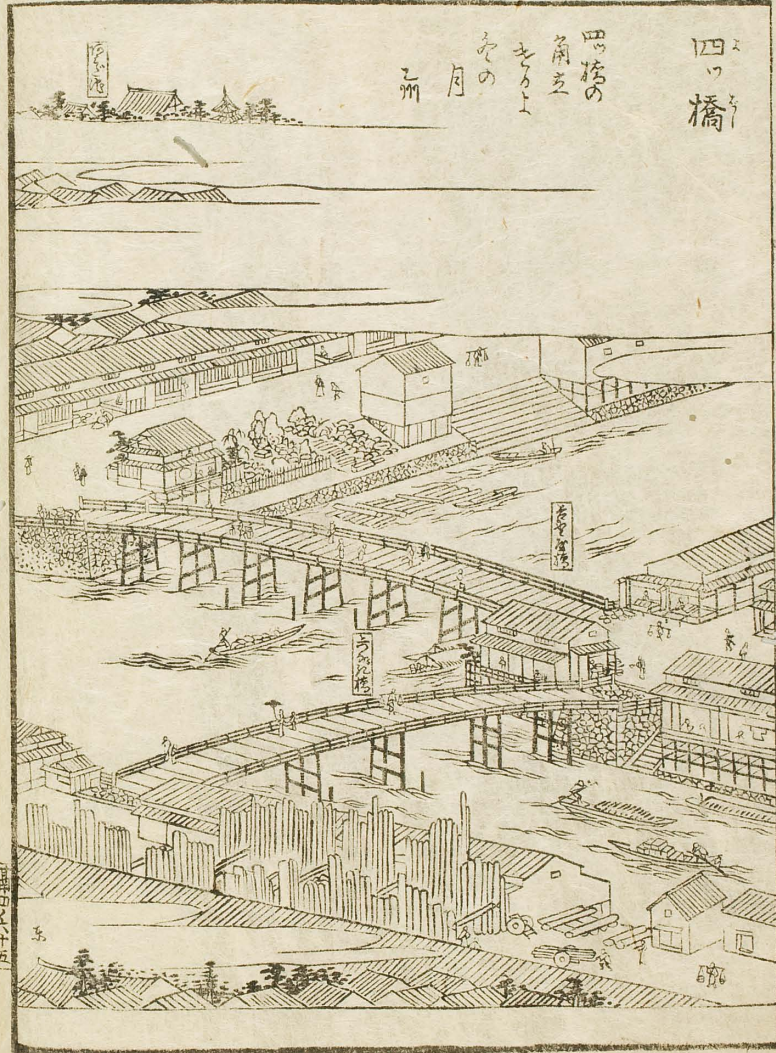
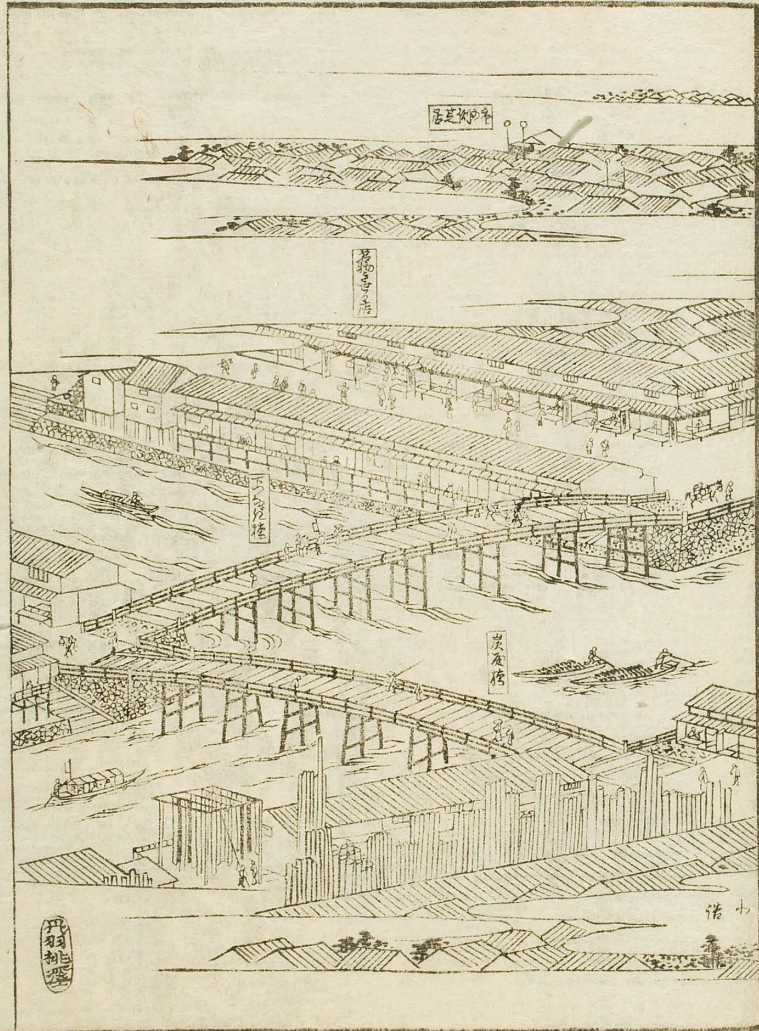
四つ橋 西横堀の上繋橋下繋橋長堀と若井橋炭屋橋あり其目は
 合す四つ橋といふ 二流 十文と号する四つ橋四方小繋橋あり
 四つの橋れり 源張張とく煙管の店あり世々名多し四つ橋
 と号く煙管の
 源張張とく煙管の

堀 長堀川西横堀より其北堀に長堀川より道延堀すく其南
 堀にともいふ地ろりりり下横堀の田圃に元禄十一年
 公命にともいふ地ろりりり下横堀の田圃に元禄十一年
 の郊原に掘て南堀に張て其の海不入其水は堀に引越して堀は
 古事記曰 仁德天皇の皇后宮中不入り其水は堀に引越して堀は
 河小隨つと号代小上幸と云云堀すかかの大川堀と堀は川に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引

堀江 長堀川西横堀より其北堀に長堀川より道延堀すく其南
 堀にともいふ地ろりりり下横堀の田圃に元禄十一年
 公命にともいふ地ろりりり下横堀の田圃に元禄十一年
 の郊原に掘て南堀に張て其の海不入其水は堀に引越して堀は
 古事記曰 仁德天皇の皇后宮中不入り其水は堀に引越して堀は
 河小隨つと号代小上幸と云云堀すかかの大川堀と堀は川に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引

堀江 長堀川西横堀より其北堀に長堀川より道延堀すく其南
 堀にともいふ地ろりりり下横堀の田圃に元禄十一年
 公命にともいふ地ろりりり下横堀の田圃に元禄十一年
 の郊原に掘て南堀に張て其の海不入其水は堀に引越して堀は
 古事記曰 仁德天皇の皇后宮中不入り其水は堀に引越して堀は
 河小隨つと号代小上幸と云云堀すかかの大川堀と堀は川に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引
 入らん其水は堀に引越して堀は川に引入らん其水は堀に引





四ッ橋の
角立
七ッ上
おの
月
乙州

四ッ橋

橋四六十五

新町橋

橋幅八

五ノ町

酒造場

香園

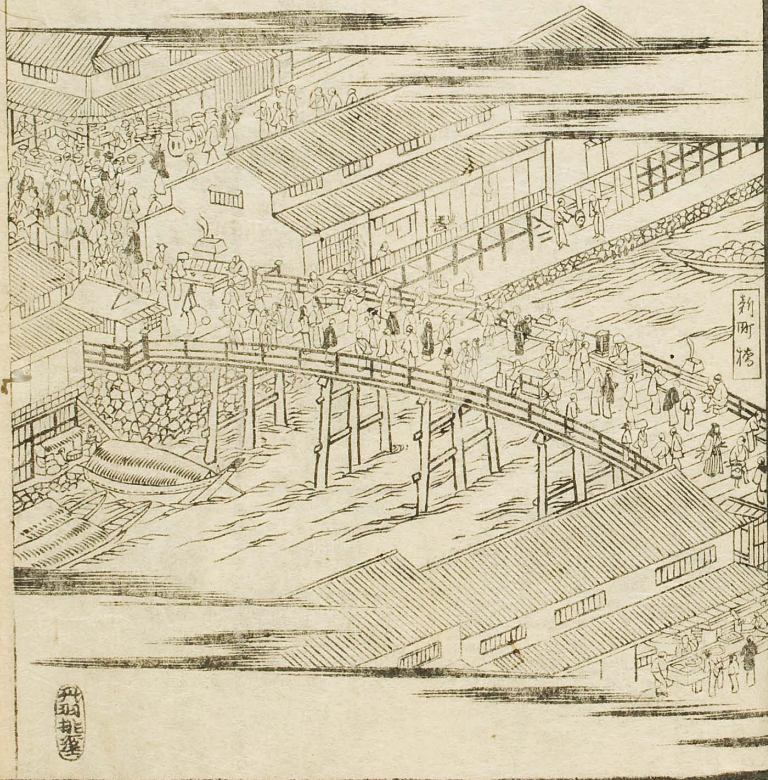
乾凍の

道と

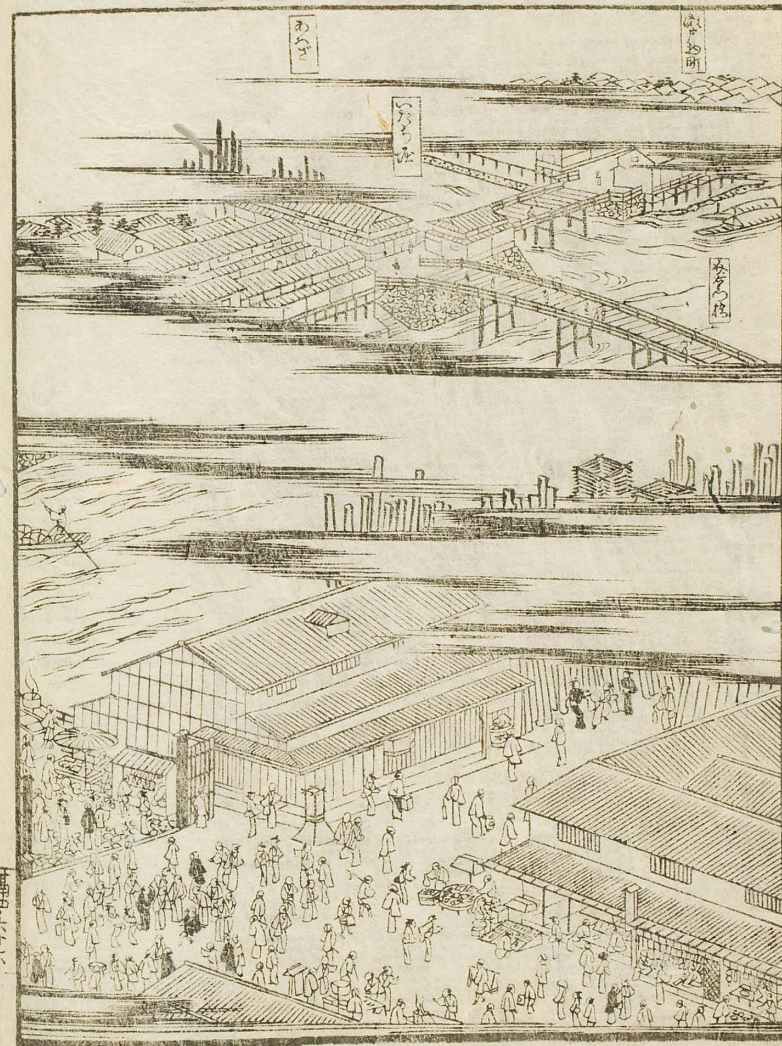
主として

男伊達

相夕

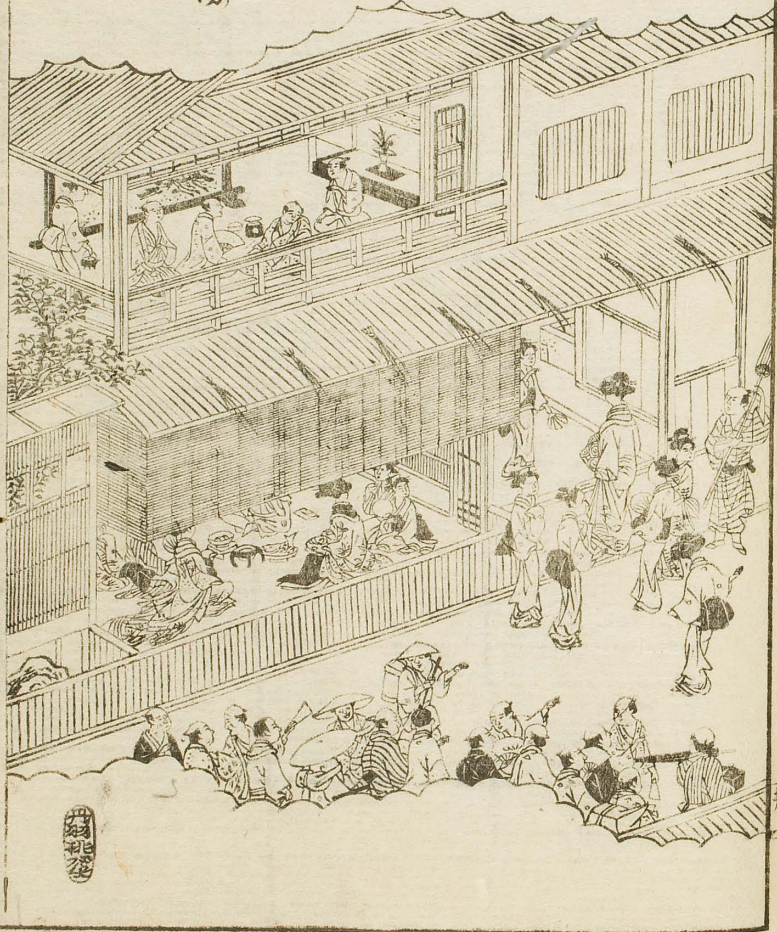


丹波橋



福海堂

九軒 小座
かみきり 小座
さし 小座
あし 小座
南無三 放蕩



新町
九軒



新

新町 新町橋より十二月の橋は棟へ順慶町西へ順慶町橋の入口にありて
順慶町橋より四時橋止ふ市店ありて順慶町橋の西にありて
向慶石工橋の東の方順慶町の内に橋ありて其所詳あるは
古き順慶寺の井ありて則津園寺の旧地ありて今に於て
名ありて今に下寺町ありて法然上人古跡ありて
石塔ありて

新町 順慶廓は新町橋の西方四町ありて往昔元正年中より民家建

續と海船の要津とて其者船の所なる花魁の家あり其地ま

野原ありて元寛永年中は地初に順慶廓官家より許許

ありて諸方の花魁とてその所ありて田圃と開けて新小町と

此世の人新町とよんて柳陌の惣名とて其初は木村亦次郎とい

伏見浪人の預より官より花魁の長とて其地をわけて者順慶の

沖馬定とて領しとて其地を渡りて此通に條は順慶町とて

居室の町は亦次郎といふ又佐渡橋とて其地をわけて者上村芳

其地今の地は後と開慶の由縁ありて佐渡橋町といひて是

といふ佐渡橋とて圓双の故に若菜町といふ大満若菜より

此旧名は順慶町の名とて佐渡橋町の船場高麗橋條の佐渡橋

といふ者順慶と開慶の地と故有て其地をわけて其地を

たりたり佐渡橋町といふ其地は五軒町といふ初玉造五軒

名とて今に地は六軒新町といふ佐渡橋町とて其地は

は津に海船輻湊の地とて此の江口神寄とて此の長極

小島足駄紋日の道中身精の内出一笑千金の花は曙より

月のゆへも蘭麝の香り濃ありて奇香の聲系舟の若

むといふ廓は総角夕暮古妻松とて此の地は元盛の

世の名高し順慶廓は元漢の李延年が傳よりて其地は

一城の尊卑ありて順慶一國の人民眼を送りて其容儀

のまじ強小城と弊と國と推と名ありて此の廓初に大坂

の藩ありて田圃は後世に市中甚多し今に難波津

の真中とて此の故ありて中とて

砂場いづみや

砂場蓄泥
限花珍
不設其
石白多回
頭上力
本質服
數千人
難高



丹羽雄登

砂場

新洲南の町北地名なり小藪と稱す
遊道より集まる半日夕に及べし重櫓小橋を
大に用ひて舟の方は和泉をとりて
沖村の産其族の姓ありとせん中氏といひて屋敷
の邊小戸の字なり今器々屋の字は須賀川
九幸の字なり又此家の先主小島駿あり

九幸の字なり又此家の先主小島駿あり

中舎仙

聖の語到而佳く不死一身仗のゆゑに于座中不有相
此翁を見ゆる志々菊甲斐國務郡の水を飲
人壽如鶴砂場之蕎麦と喰人壽令右小同

半時庵

白洲岬

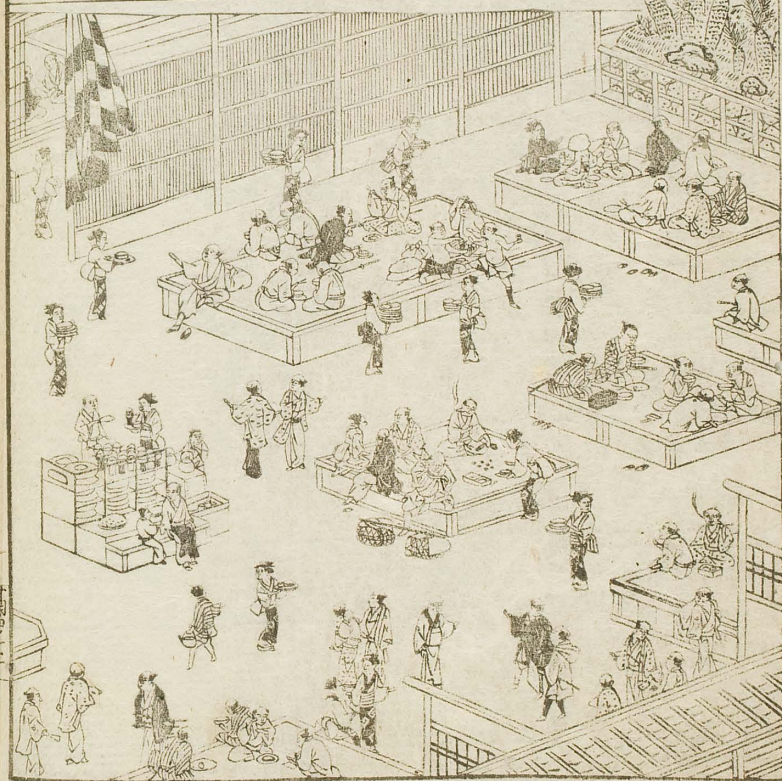
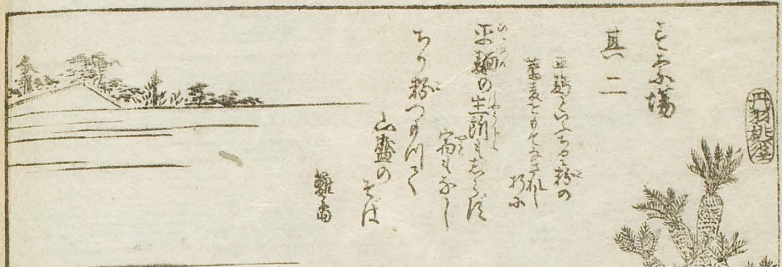
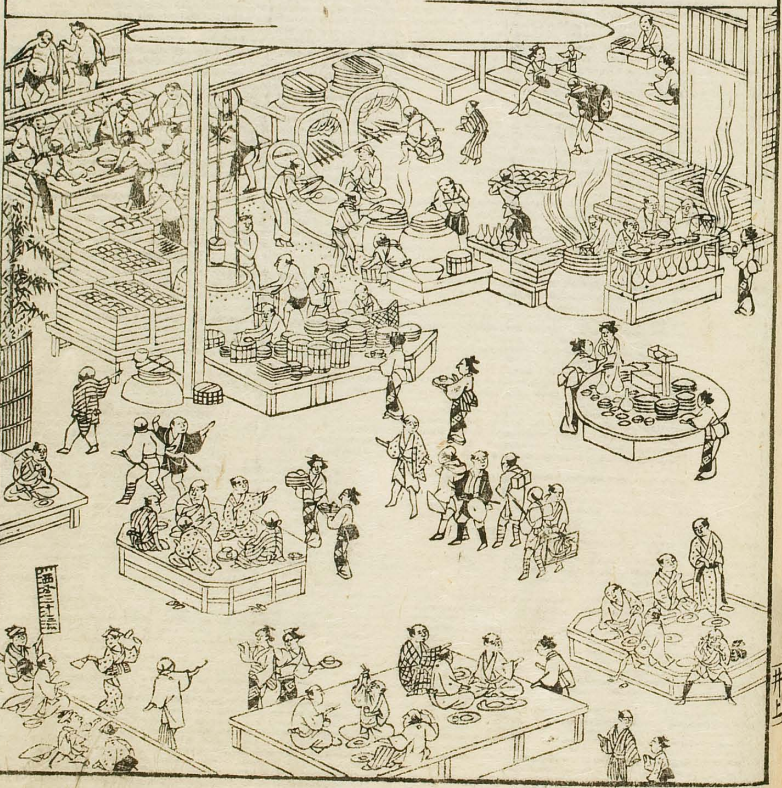
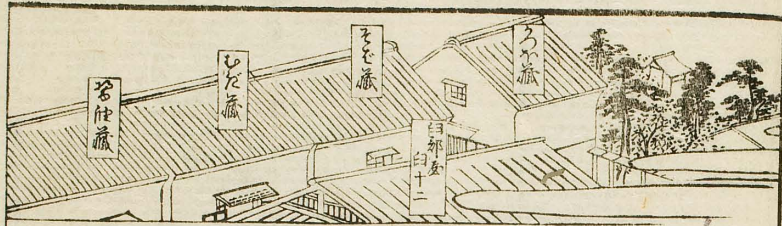
今の西海より西の方北慈名なり
向發洲の變名なり

難波渡沙千むねく立先白洲の傍れ小貝をらひ

江市之側

芝居放し下柳町小妓婦の發足く懸る中より
長谷寺本寺と同本と云はれ地は寛永年中の茶創なり

丹羽雄登



蓮池山和光寺

和光の蓮池通あり智徳院と號し

本尊阿彌陀一光三尊佛

上人佛影長き大寸柱昔伊豆國走馬山淨蓮

本堂額

和光と書次實鏡寺官

阿彌陀池

淨堂の小あり池神女寶塔あり彌陀三尊安並次額ら

觀音堂

本堂の南

觀音堂

觀音堂

觀音堂

林着地藏

東の門内

焰魔堂

日所小

地藏堂

小の方

金銅地藏

池の初

鐘堂

東門の

文當寺の阿彌陀池にむ

欽明天皇の神時百濟國より佛像

經卷と授け帝は是れを信の事大方を授け小物部守屋

大連尾連中長連等奏しく曰我國之神國之蕃神と云

天津國津神の神怒りん其上は疫疾流行して國民亦悲しく

早く退放ち候しく有司修く寺塔と碓倒しありひ火放く

佛像焼喪を事多く其中小彌陀三尊火丹焦次碓や推攷

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

蓮池山和光寺

包まれく水ものひる蓮の非

湖ま



寺小
 大正
 自又
 大正



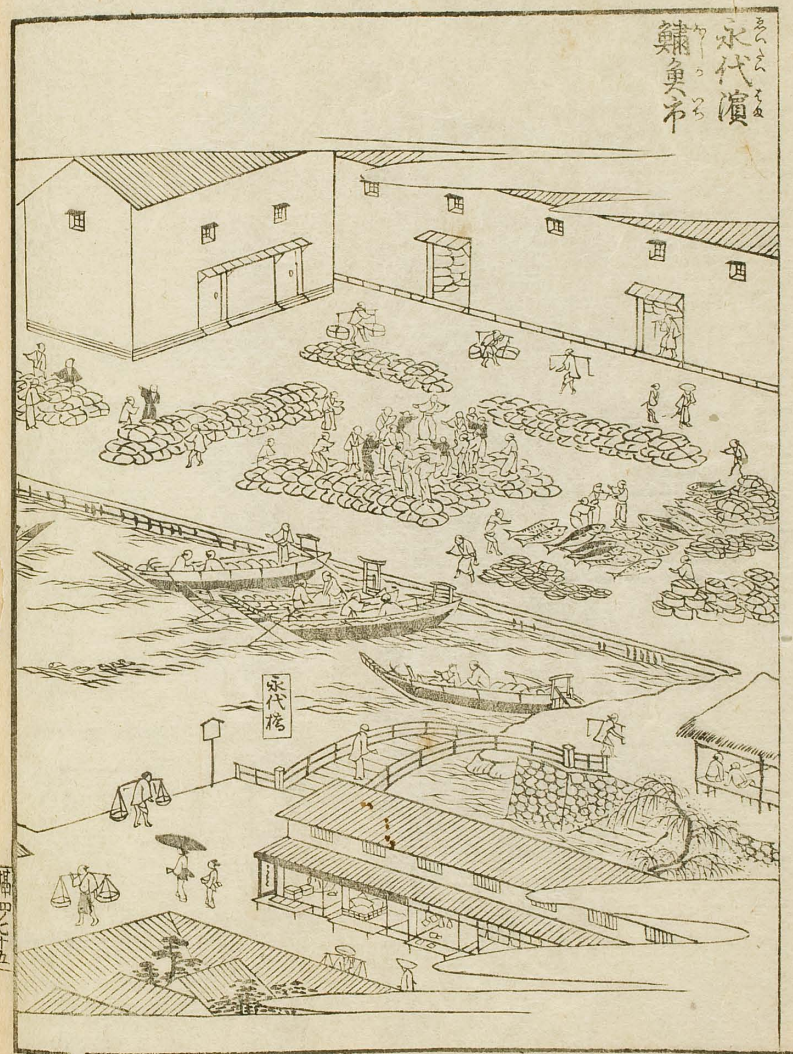
阿彌陀池
 和光寺

海防

干魚を
小園に
多く積
めりし
向九寺
平次
されど又
諸國より
豊後
の
細末
灰小倉
田畑の
肥料と
して



永代濱
干魚市

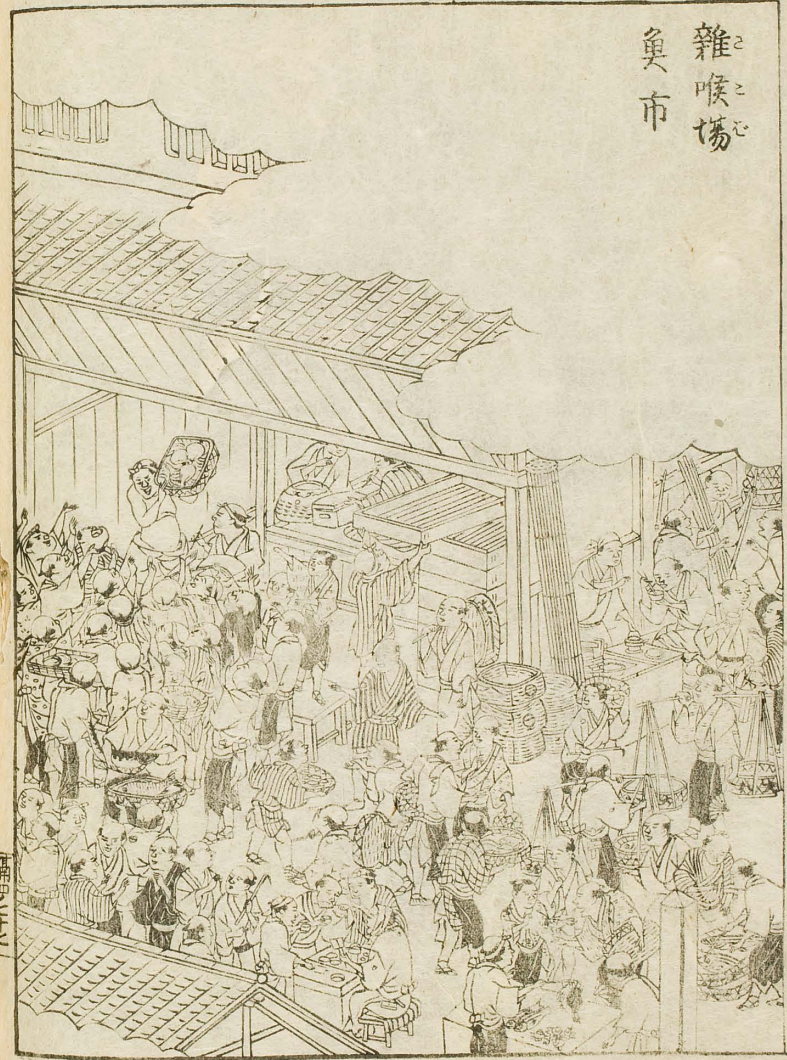


雜喉場の市は毎朝遠近の浦より繰とまり運びく製糖の小魚
 より繰親の大魚あり左大沖が都賦は書一殺すく郡なるして市
 立ちく押は市の始と豊太岡沖城と管ゆひ列侯意とつもの
 時山城伏見の民家命と崇とくは地多く引梅とる若乃費人
 交易して繁昌の地とある今の伏見町は之諸奥と沖城の西あり
 市はふは其賣福は安しくと高聲は喚る秀吉は沖通駕の時其賣
 聲は耳に入安くと夫の菓の賣聲さうんをそれあは靴やの
 登たくと宣へ因茲其町の名は靴と號く今の奉親町是と都と
 交易の場と向屋向凡といふ事(義)の市親と向合とるより名とせり其
 初は鮮魚向屋十八軒極まり今の雜喉場はむり醫務といふ所之其後
 慶安承應の間に鮮魚向屋安土町後後町のやうふあり今の上奥登町と
 きはたつ市は亭と申上りといふ二月より十月といは温氣され上奥登
 町(運送)ぬれは鮮と鮓ぬれはの雜喉場(浮舗)とてさくさく毎朝市

浦田庄十六

と亭と十月より二月と本肆と賈と厥后延寶の頃より為浦の漢人
 本舗(運送)る魚厭ひを遠く元舗と今の比(引移)永きやう鮮魚の
 市は立ち事とあり初勸所生奥乾魚の向屋のつらもかりし後世に
 阿波産(引移)今新勸所といふ毎年六月廿八日例祭は雜喉場より
 所産ひまゆく神遊の所は雜喉場、着着ありそれより陸地少く小間
 抄店より所産所(入)の屋世今の夫嶋(所産所)と遷候
 廣教寺 西寺願寺所産所(引移)松山と稱候
 本尊阿弥陀佛 初は青蓮院尊經法親王の所念持件之
 脇櫃(宗祖)人若所内跡上人の親と安是(一)沖堂額 極慶堂と書候
 傳向は至徳太子七重社の親は安是(一)沖堂額 法上人の書
 尚寺の向基は本願寺才三代覺如上人の季子若宗上人の所産所
 沖堂と稱候又此寺の書院の産中真妙といふ山水は諸般風系は
 ろく古樹古楊あり大樹の樹多く親家屋の額は慶尼室と書り
 益學の寺は四方市中ありては若樹齋と山林のあり
 敷屋町龜倉 阿波産所産所(引移)若樹齋の徳の由若宗上人の所産所
 海川の沖(一)放り年居る西園方の漢師はありてあり対地引の酒は
 と藤よりれは大坂遊屋町とあり所の者初の亭とあり若宗上人の所産所
 其後は町中水火の難なりといふ

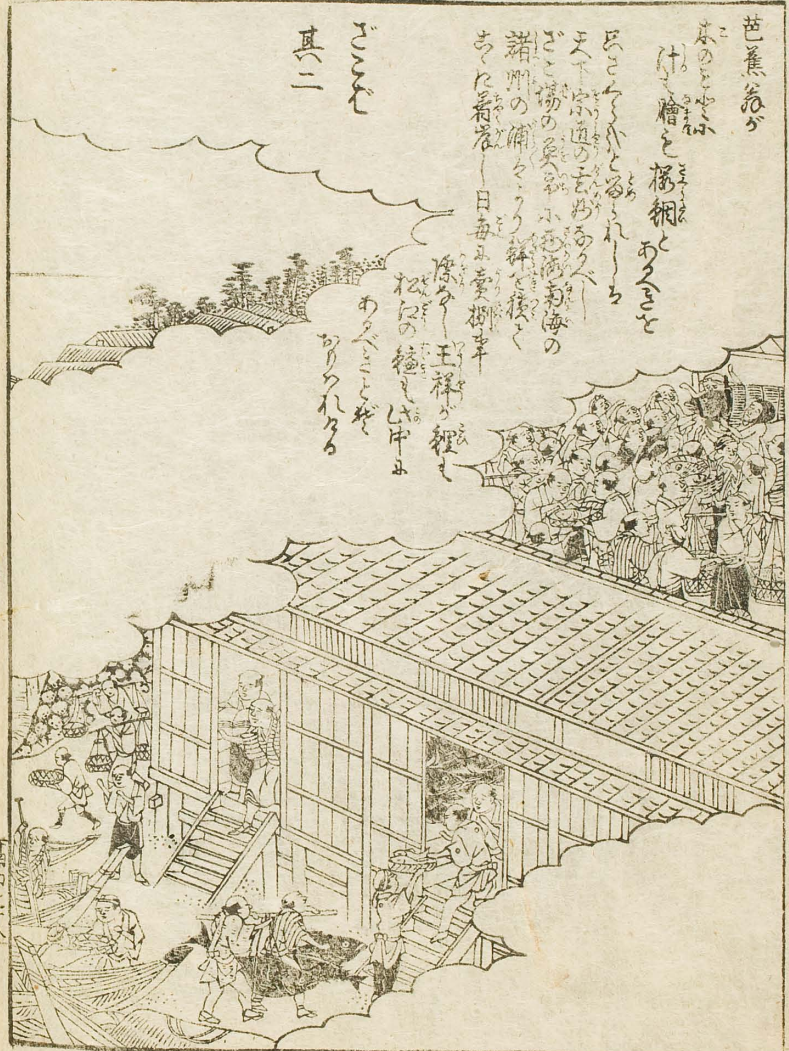
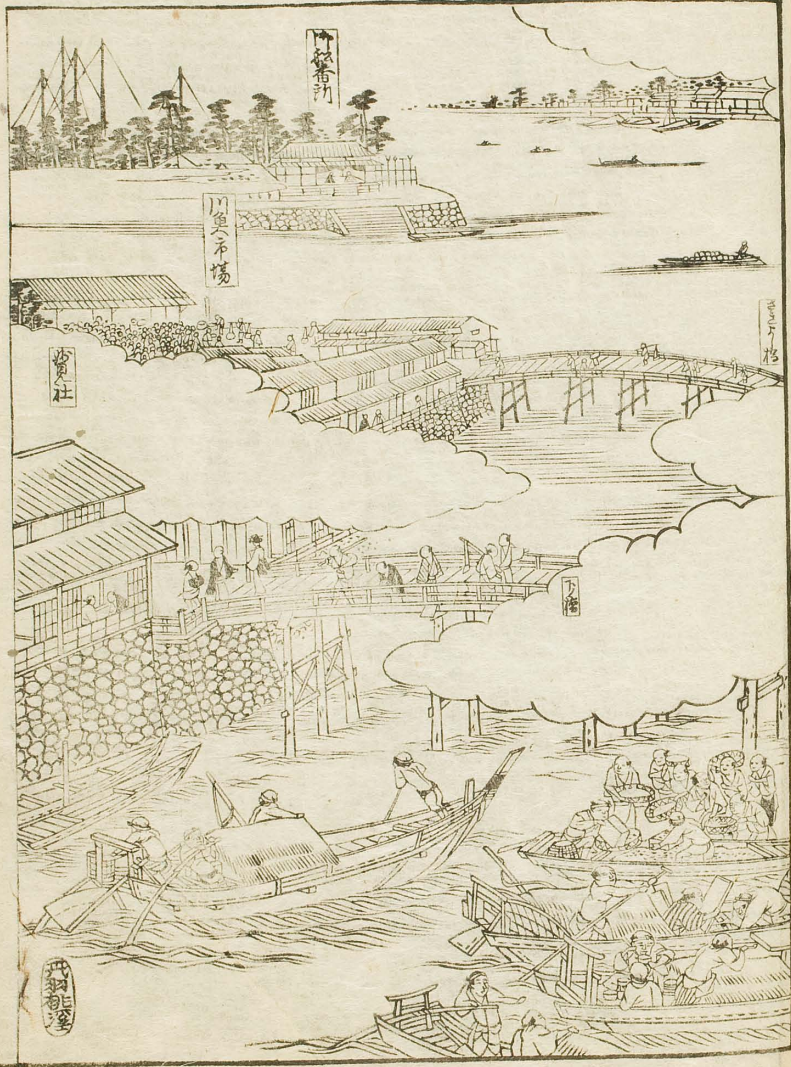
雑喉場
魚市



釣毎小
あつほり
市丸丸
都丸
紅丸



丹羽



芭蕉翁が
 舟のりや心
 けし 繪と 極細と
 あらまこと
 只とてかたしるされし
 天下の道なきあり
 ごと場の奥にふる海南海の
 諸州の備々しつと後と
 きたる者 日毎に愛柳平
 舟のり 王様を 極
 舟の極し 舟中
 ありとて 舟
 ありけれなる
 其二
 ごとく

舟屋

敷津浦

按どりふ今の... 敷津浦は... 浦に... 浦に...

彩色

後吉の波津のう... 後吉の波津のう...

後吉の波津のう... 後吉の波津のう...

彩色

舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟...

彩色

目新の志... 目新の志...

目新の志... 目新の志...

彩色

後吉の松乃岩... 後吉の松乃岩...

後吉の松乃岩... 後吉の松乃岩...

彩色

松乃岩... 松乃岩...

松乃岩... 松乃岩...

彩色

傳勞... 傳勞...

傳勞... 傳勞...

彩色

大佛嶋... 大佛嶋...

大佛嶋... 大佛嶋...

彩色

山田道安... 山田道安...

山田道安... 山田道安...

彩色

公慶... 公慶...

公慶... 公慶...

彩色

代... 代...

代... 代...

彩色

所... 所...

所... 所...

彩色

再建... 再建...

再建... 再建...

彩色

申上... 申上...

申上... 申上...

彩色

一統... 一統...

一統... 一統...

彩色

津西... 津西...

津西... 津西...

彩色

文治... 文治...

文治... 文治...

彩色

其... 其...

其... 其...

彩色

其... 其...

其... 其...

彩色

其... 其...

其... 其...

彩色

其... 其...

其... 其...

船具店
ふねぐら



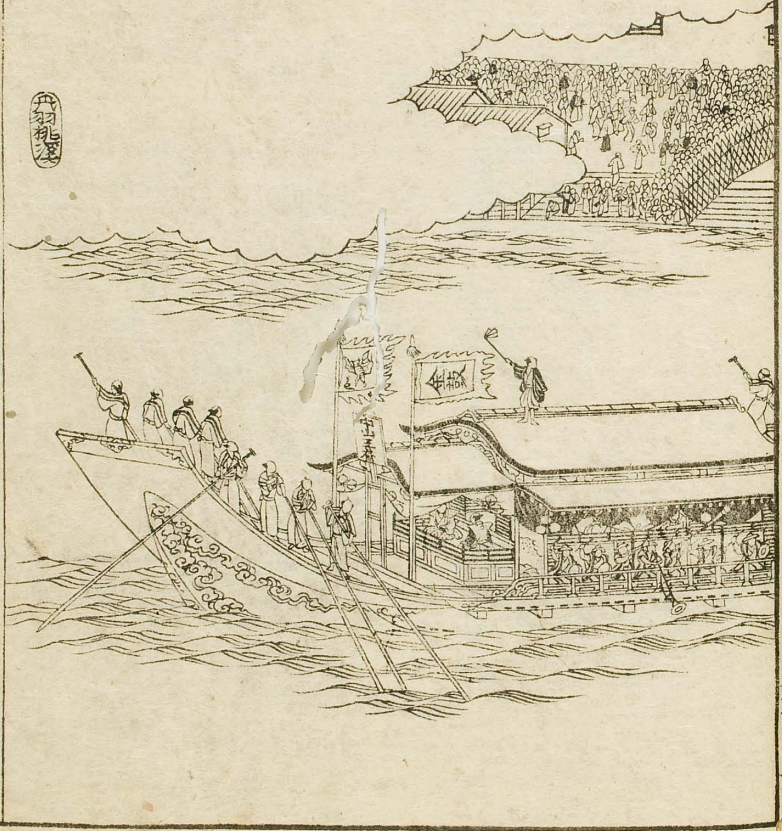
編羅八十

舟の口は海
の町をふは店
多し帆本俵
艘大船大破
舟の十ホ又マ
番人多りい
やらの様々
帆本俵と
おしおき
るんやらの
業あり



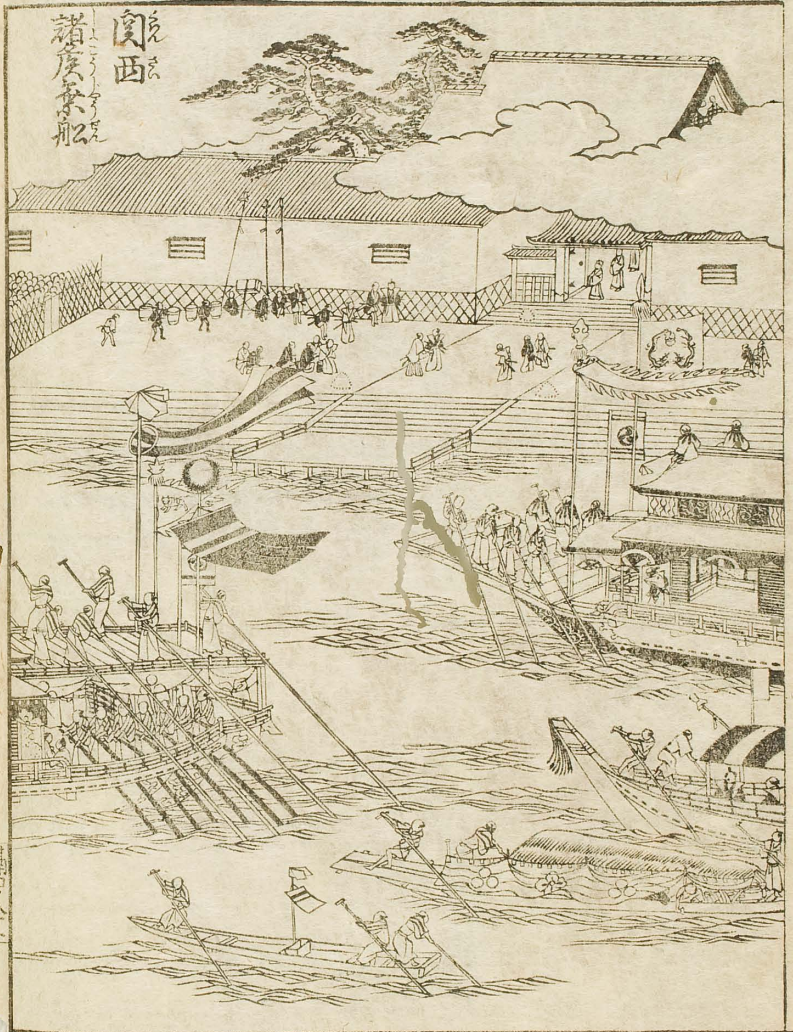
桃溪画

琉球人
難波津
着岸

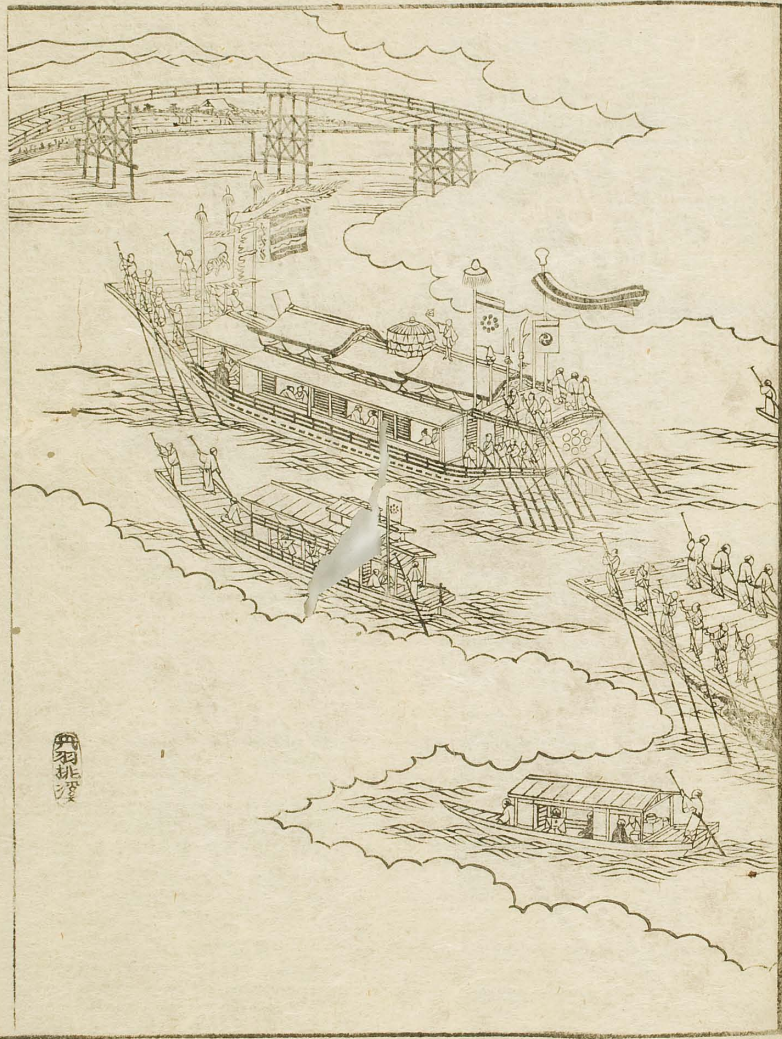


六羽船

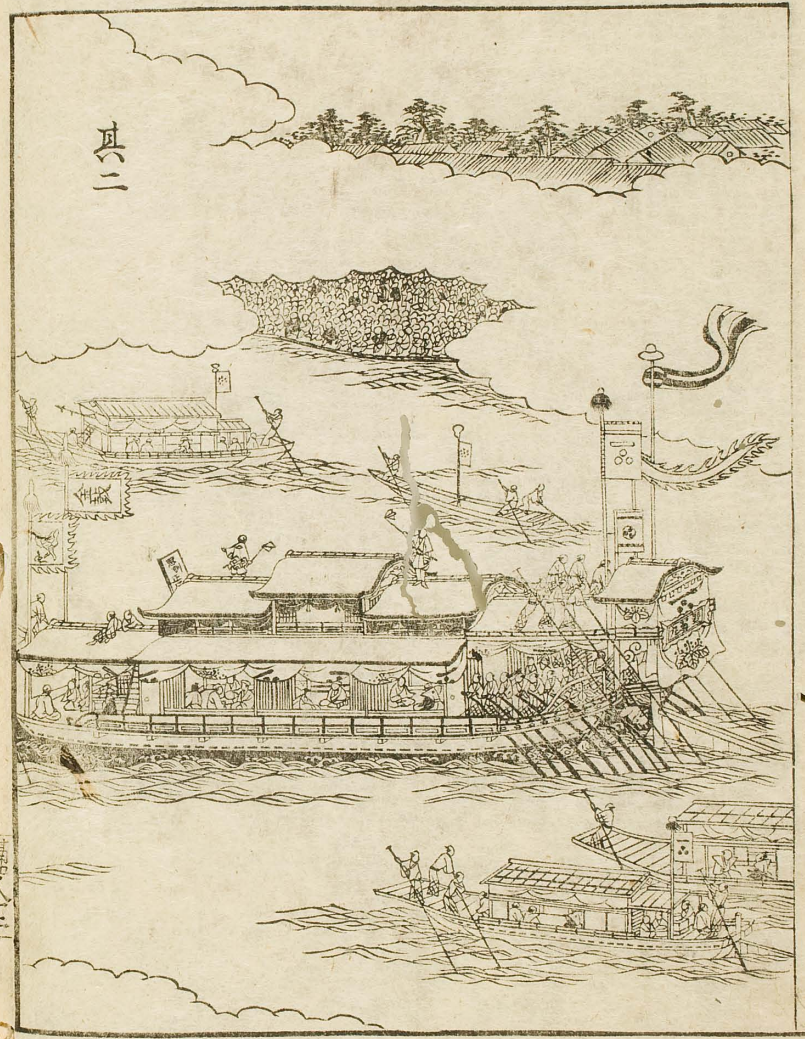
西
諸廣長船



福四八十一



舟羽挑渡



其二

舟羽挑渡

安治川橋

ありては、はたのうへて
 晴く友らふふりて日
 むしあふ金支七分
 の五人男伊達角あは
 しく、家へく、遊具と
 尺八くたぐれ、花の
 うらうらの中、曲、さうな
 あり、さう、さう、大船初と
 あり、さう、さう、大船初と
 こしく、さう、さう、大船初と
 芝居の、さう、さう、大船初と
 まへ、さう、さう、大船初と

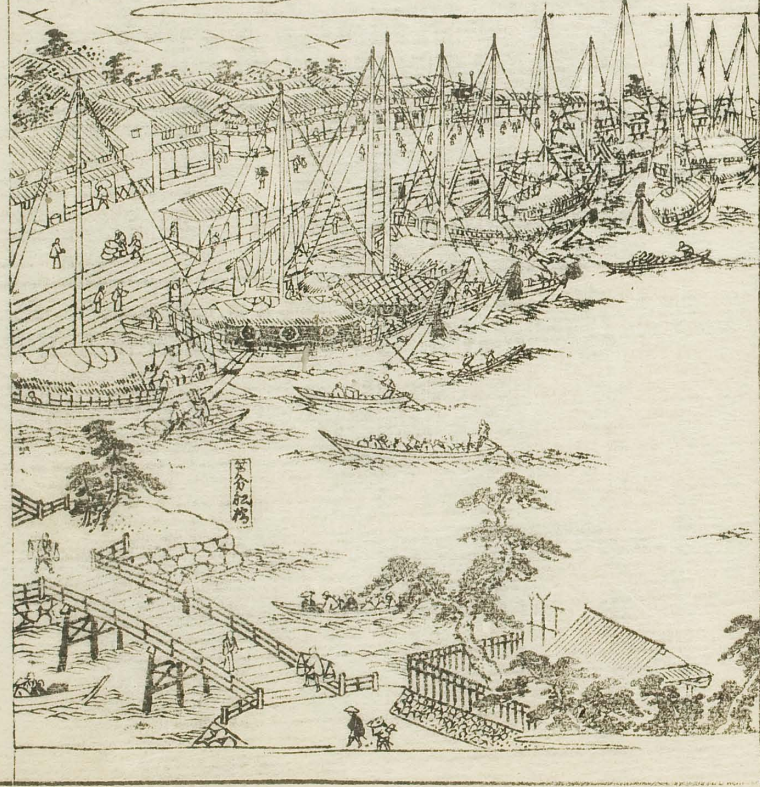


橋四八十四

羽田屋

舟が、さう、さう、大船初と
 あり、さう、さう、大船初と
 こしく、さう、さう、大船初と
 芝居の、さう、さう、大船初と
 まへ、さう、さう、大船初と

舟の、さう、さう、大船初と
 あり、さう、さう、大船初と
 こしく、さう、さう、大船初と
 芝居の、さう、さう、大船初と
 まへ、さう、さう、大船初と



安治川橋

雑波海

西成郡小属... 延喜式云 東宮... 御琴彈一人 神部二人 及内侍一人 内藏... 並使一人 舍人二人 赴難波湖祭之云云
後醍醐天皇慶長五年二月十二日 首途 自大和國 經山城河湯宮 到攝津國難波 海解除云云

石条

たごえは道ありく押照や難波の海とありまじりし 老藤呂

按より八十餘枚の舊跡南中世の也今里へあまふ畠畧しりく橋頭といふ
今小枝場の古跡小庭と種々并式を勤む

雑波沖

あはれのゆふ

三本

雑波浮志は海とふふはせは辰小浮小沖の為祀 圓手法師

四

辰小沖あはの沖れはけけりくあそふあまのりたて 後九条

五本

あまはれはけけりくあそふあまのりたて 後成

雑波浦

又雑波に浦とも稱す西成郡と指し
一説より西成郡難波村とす

六本

これと君あたりの浦小ありくうらたてをいひらばあつた 伊勢

七本

ありひをる衣も雑波の浦さひをのうらたてをいひらばあつた 伊勢

八本

ふもねくうけのちをいひては月やけさひく雑波の浦 西成

權五

雑波江

雑波江とも雑波江とも稱す
若中世のやうりき云々

九本

心ありあまをさうまあたあた江のまのりたてをいひらばあつた 寂蓮

十載

あまはれはけけりくあそふあまのりたてをいひらばあつた 貞時

十一載

さたかへ入江をさそふ草鴨の玉藻の舟ふきひをいひらばあつた 貞時

十二載

あつた名雑波の小はれはけけりくあそふあまのりたてをいひらばあつた 下巻

十三載

あつた名雑波の小はれはけけりくあそふあまのりたてをいひらばあつた 下巻

雑波水門

西成郡今の入坂小
准よりさそふ

十四載

あつた名雑波の小はれはけけりくあそふあまのりたてをいひらばあつた 實成

雑波道

方角右小
准と

十五載

あつた名雑波の小はれはけけりくあそふあまのりたてをいひらばあつた 實成

雑波直

一説云里村の
糸の儀は名付たる

十六載

あつた名雑波の小はれはけけりくあそふあまのりたてをいひらばあつた 後成

十七載

あつた名雑波の小はれはけけりくあそふあまのりたてをいひらばあつた 後成

十八載

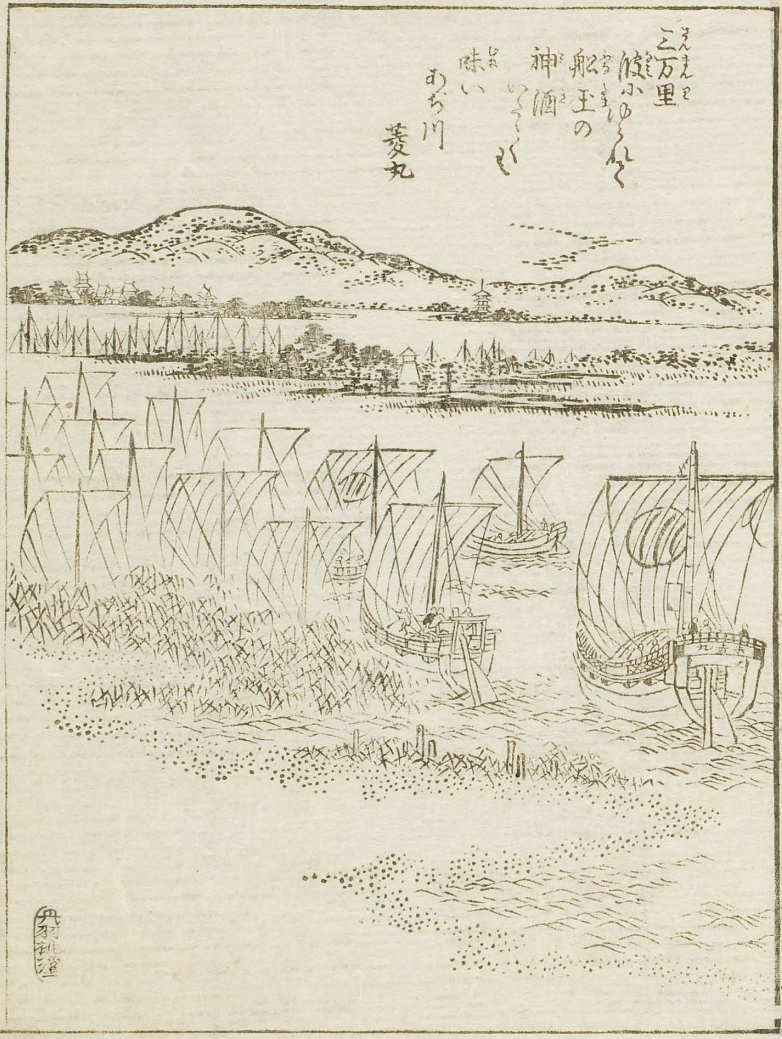
あつた名雑波の小はれはけけりくあそふあまのりたてをいひらばあつた 後成

粕園

或云今宮村小あり右の位を郡の畠と
今ささうらり

十九載

あつた名雑波の小はれはけけりくあそふあまのりたてをいひらばあつた 後成



三万里
 船王の
 神酒
 味い
 あら川
 菱丸

舟上



水忍衝石
 又標
 安清川口
 諸船
 入津

福四六六
 舟上

樓岩

今ささきさう波或云福崎のやうりえとを一名論の巻といふ

雜波

義経宗尉運橋の編とていふ名と在

千載 雜波の藻牙うけり玉柏あつた人ときを

添後頼朝

哥林の林云いふ小多さう一雜波の玉柏を石坂のくまにはふ石の

おのゆり俗の具石次玉柏といふ事むり

二のけり小幸しく拘映の又せといふやとり

斤葉

按むか小浦と雜波の川を多し深川其沖の亂うり其

空衣たて初く終ふ其性

芦多し或云雜波のたふ

斤葉よりお多しといふ

攝津名所圖會卷之四

福正全七屋

MINTE

